

目次

田上時子のエッセイ 親の役割=無条件の愛と制限	1
特集 メグさんインタビュー 子どもの安全のために必要な性の健康教育	2~3
活動報告 大阪府こどもエンパワメント支援事業/「スター・ペアレンティング」学 習会第3クール終わりました	4
男女共同参画功労団体として表彰されました/助成金による事業「子 どもの心を育てるワークショップ」/スター・ペアレンティングファシ リテーター養成講座	5
リレーエッセイ 浮穴美和子/竹内佳寿子	6
講座インフォメーション	7
会員の紹介・入会のおさそい	8
編集後記	8

田上時子のエッセイ

**親の役割=無条件の愛と制限**

奈良県の医師方が全焼し、母子3人が死亡した放火殺人事件で、殺人と放火容疑で16歳の長男が逮捕された。犯行後、民家に侵入し、電話線を切り、冷蔵庫から食料を盗んでサッカー・ワールドカップを観戦していたことも分った。

父親は長男が小学校から医者になることを期待。自宅の一室を「ICU（集中治療室）」と呼び、勉強に集中できるように配慮したという。少年は犯行動機を父親の期待と重圧からの逃避と話す。

この1年間に、同様の犯行動機で4件もの放火事件が起きているが、改めて思春期の男の子を持つ親のあり方の難しさを考えている。

親の役割とは大きく二つあり、「Love & Limit」（邦題：『親をたのしむ5つスキル』）、つまり「無条件の愛情と制限」を与えることである。条件付きの愛情は子どもにとっては虐待に等しい。期待通りなら愛してやるが、そうでないなら愛さないのでは、自分の存在そのものを否定されたと感じるのも当然で、「心の居場所」を見つけれない。もう一つの親の役割は、「制限を設ける」ことである。社会にはルールがあり、それは犯してはならない。踏み越えてはならない「境界線」を教えることにある。今回の

場合、残念ながらこのどちらもが欠如している。

子どもは親の思う通りになんてならない、と早く覚る必要がある。なる筈がない。自分のことも思い通りにならないのだから。自分以外の人を思い通りにしようという考えは捨てた方がいい。子どもの人生をコントロールしようとしなないことだ。親が必要があるのは、子どもが自分の人生を自分でコントロールできる力をつけてやることであって、その内容は、親が決めるようなものではない。

幸せは考えるものではない、感じるものである。お金で幸せは買えない。お金がなくても幸せな人はいくらでもいる。子どもに幸せになって欲しいと願うなら、幸せを「感じる力」をつけてやることである。

子どもを取巻く環境は激変しており、親だけでは子育てできない時代に入っている。親以外の大人が子育てに関わる社会システムを真剣に考えるべきであろう。これを「育児の社会化」という。特に思春期の子どものには必要である。